



秘訣は何でもおいしく食べること

成田よねさんに100歳顕彰状

五所川原市協元にある特別養護老人ホーム「すわんの里」で3月3日(土)、成田よねさんの100歳を親族や職員がお祝いしました。濱館町長が「100歳おめでとうございます。これからもまだまだ長生きしてください」と顕彰状などを手渡すと、成田さんは「ありがとうございます」と感謝の言葉を述べていました。成田さんは、大正7年に旧小泊村下前に生まれ、昭和12年に成田卯吉さんと結婚し、5男5女をもうけ、孫21人、曾孫11人、玄孫1人に恵まれました。早くに夫を無くしましたが、子どもたちが漁業や出稼ぎで得た収入で生計をやりくりしてきたそうです。また子どもたちが自立してからは、毎日のように下前の急な坂道を登りながら趣味の畑仕事をしてきたそうです。

努力が実り、咲く笑顔

中里高校卒業生が表敬訪問

中里高等学校3年生12人がこのたび卒業し、そのうち3人が大学進学を果たしました。中里高校によると、これまで2人合格はあったが、3人合格は開校以来初とのこと。合格したのは、竹谷雅さんが青森公立大学、小寺俊栄さんが県立保健大学、小野喜也さんが弘前大学で、3月29日(木)には濱館町長を表敬訪問しました。町長は「誠におめでとうございます。たくさん努力があったと思います。進学先ではやりたいことや勉強を思いっきりしてください」と激励の言葉を贈りました。3人は「辛いときもあったが、合格を夢見てがんばってきた。家族はもちろん、付きっきりで勉強を見てくれた先生のおかげです。中里高校に入学してよかった」と笑顔で話していました。



漁業者の所得向上目指し

三村県知事に受賞報告

浜の活力再生プラン全国推進会議が3月7日(水)に開催され、当町の小泊地域水産業再生委員会(会長・成田直人小泊漁協組合長)に、全国共済水産業協同組合連合会会長賞が贈られました。浜プランは国が始めた水産・漁業の地域活性化に向けた改革の取り組みで、5年間で漁業所得10%以上向上を目指すものです。小泊地域水産業再生委は、町、小泊漁協、下前漁協などで組織され、中泊活ハマクラブ発足やメバル網はずし体験などの「ブルー・ツーリズム」で経済効果を上げるなど、若手漁業者育成による浜の活力再生が評価された。19日(月)には、成田会長と濱館町長が県庁を訪問し、三村知事に受賞の報告をしました。三村知事からは「若手漁業者の活躍がうれしい。これからも協力して取り組んでいってください」と激励の言葉をいただきました。成田会長は「漁業者の元気がないと地域の元気もない。所得10%アップを実現し、地域の活性化につなげたい」と意気込みを語りました。



保護司になりました

五所川原地区保護司会中泊分会

五十嵐さんは保護司の研修を受講し、「とても責任のある重要な職務だと感じた。他の保護司のみなさんと協力しながら更生の手助けをしたい」と意気込みを語っていました。

保護司は、主に犯罪・非行者の保護観察や生活環境の整備などを行い、更生保護を支える民間ボランティアです。今後とも、地域の皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

3月1日(木)、法務大臣から保護司を委嘱された五十嵐弘さん(派立上)が、新任保護司としてスタートを切りました。



住民の目線になって医療を

小泊診療所に平野所長が着任

小泊診療所前所長・武田温医師の後任の新所長として4月から着任する平野貴大医師が、3月30日(金)に濱館町長を訪問しました。町長から平野所長へ辞令が手渡されると「地域住民の目線に立ち、分かりやすい説明をして健康・医療に貢献したい」と抱負を述べました。町長は「きていただきありがとうございます。大変なこともあると思いますが、小泊地域の住民をよろしくお祈りします」と話しました。

平野所長は、自治医科大学卒業後は県立中央病院、大間病院などを経て、小泊診療所に着任しました。

進むべき道見据え

管内小・中学校で卒業式

管内の小・中学校では卒業式が行われ、4つの小学校ではあわせて74人、2つの中学校ではあわせて76人が卒業を迎えました。卒業式では、不安と期待の顔をした卒業生らが、在校生や教師、保護者らにアドバイスや感謝の気持ちを伝えたり、夢や目標を大きな声で発表していました。最後の校歌を斉唱すると、これまでの思い出が浮かんできた様子で、一筋の涙がこぼれていました。卒業生らは「新しい生活になるので少し緊張しています。勉強を頑張って夢を叶えたい」と元気よく語っていました。



新たな観光資源開発を目指して

津鉄ア・モーレが現地検討会

中泊町と五所川原市を結ぶ津軽鉄道の利用活性化を目的に結成した両市町職員の活性化促進チーム「津鉄ア・モーレ」が3月12日(月)、大沢内ため池公園でスノートレッキングなどを冬の観光資源として活かさないか検討しました。

現地検討会には、津鉄ア・モーレのメンバー8人のほかに、津軽地吹雪会の角田周代表、全日本ノルディック・ウォーク指導部会員の小田桐匡孝氏が参加しました。参加者は厚い残雪の

なか、実際にスノーシューを装着し、小田桐氏の指導を受けながら、公園内をあるいてトレッキングを体験しました。角田氏は「課題はあるが、景色、コースともに優れ資源としての可能性は大きい。あとは参加者を飽きさせない工夫が必要」と話していました。参加した津鉄ア・モーレメンバーは「津軽鉄道への誘客促進に向けて、参考となる有意義な時間でした。自分たちにできることから始めて津鉄を盛り上げていきたい」と話していました。

ちびっ子パティシエ誕生!

デコレーションケーキを作ろう

中央公民館で3月4日(日)に「親子でクッキング! デコレーションケーキを作ろう!」を開催しました。4組の親子が参加し、鈴木瑞季栄養士から説明があった後、市販のスポンジケーキに生クリームをぬり、旬のイチゴやキウイ、バナナなど果物を思い思いの形に切り、飾りつけを行っていました。たくさんの果物を飾り付けしたので準備した箱に入らないくらい大きなケーキも完成しました。参加した親子は「今日、誕生日だから参加してみた」「参加料が安くて期待していなかったけど、満足した」「楽しかった」など感想を述べていました。

